



市民の手で市民活動を支える

特定非営利活動法人

宝塚NPOセンター

通信
No.69

2011.12

「私とNPO」

特定非営利活動法人
ともにいきる宝塚
理事

山下 峰幸



このたび、私たちは「NPO法人 ともにいきる宝塚」を立ち上げました。それは、昨年夏の“子どもによる自宅放火”という痛ましい事件に直面し、同じ宝塚市民として心を痛めたことがきっかけになりました。何が子どもたちをそこまで追い詰めてしまったのか、という暗然たる思いに駆られました。そこで、昨年秋以降、幾度もの寄り合いの結果、4月30日の設立総会を経て11月に「きずなの家 ともにいきる宝塚」を開設することになりました。それは、子どもの「居場所」づくりを目的としたものです。阪急小林駅近くの民家で、子どもたちの学習支援を中心に活動していきます。宝塚市の「宝塚きずなの家事業」の活用第一号として、市の助成(家賃の半額)を受けることにもなりました。

10年以上前に小野市の中学2年生が綴った次のような「思い」「訴え」を他山の石とすべく深く胸に刻みたいと思います。

お父さんの仕事の関係で三年前に日本にやってきました。違う国へ行ける、雪が初めて見れる喜びの反面、仲のよかった友だちと別れる悲しさでいっぱいでした。…言葉が通じない不安をかかえながら日本で生活をスタートしました。小学校五年生の三学期からK小学校に通い始めたのですが、最初はすごく緊張しました。私から声をかけようかと思っても言葉がわからず、声をかけることができませんでした。まわりは日本語ばかりで、ただ騒がしいだけで、まるで耳が聞こえないようで変な感じでした。

友だちができるのだろうかと不安でいっぱいでした。…六年生になり、私と同じブラジルから、六年生と三年生の兄弟がK小学校へ転校してきました。私はとてもうれしかった。住んでいるところも同じで毎日一緒に遊んでいました。ところが、その六年生の子は、学校へ行くとずっと泣いていました。先生も心配していました。私は通訳を頼まれ、その子と話をしました。「どうして泣いているの」と聞いたら、「誰かの近くを通ると、『ガイジンや』、『ガイジンや』と笑って言うてる。言葉も通じないので帰りたい」と言っていました。…(私も)「ガイジン」とか言われてとても悔しくて悲しかったけど、友だちの支えで、あまり気にせず、がんばることができました。そんなことを思い出しながら、その子に、「私もそういうことがあったけど、がんばってみんなと仲良くしよう。私も力になるから。」と言ってあげました。けれども、その子は、中学に入る前に転校していきました。私はとてもかわいそうでなりません。みんなで仲良くすればいいのに。…

〈「みんなアミーゴ(友だち)」マルケス ナタリア ユリ『届け！私の思い』1998年より〉

「自宅放火事件」から深刻な問題の数々を感じ取ることができます。外国人児童・生徒の受け入れや教育対応における公的条件整備の不備、「高校進学」をめぐる不安、言葉の壁、日本人生徒とのもめごと、親の厳しくて不安定な仕事、親への反発からくる会話・対話の欠如、引き裂かれる心、失望感、孤立化、非行、等々があげられます。しかもこうした諸問題は、日本人生徒の側にも共通するものです。〈ともに生きる〉という理念の追求の困難さを痛感せずにはられません。

いま私たちは、こうした在日外国人生徒や親の、生活と教育の現実、さらには、彼・彼女たちの文化と実際の生活の現場を見据えることから出発したいと思っています。

NPO等イメージアップ作戦事業 寄付募集支援事業 社会を変える「ひょうごコミュニティ基金」(仮称)



3月に発生した東日本大震災に対する募金活動、タイガーマスク現象など、2011年は寄付元年と言われました。また、市民からの志のあるお金を社会的な課題解決に取り組んでいるNPO等に届ける仕組み「市民のお金の循環」も、全国で作られ始めています。しかし、その多くは規模も小さく専属のファンドレーザを配置することはできず運営も安定しているとは言えません。

そこで、兵庫県内に市民とNPO・市民団体をつなぐ基金を作りたいとの思いから、今回の事業に手を挙げました。しかし、受託金額は100万円。そのため、兵庫県内の6つの中間支援組織(コミュニティリンク・シーズ加古川・市民活動センター神戸・市民事務局かわにし・場とつながりの研究センター・宝塚NPOセンター)がネットワークを組み、市民からの志のあるお金を社会的な課題解決に取り組んでいるNPO等に届ける仕組み「ひょうごコミュニティ基金」(仮称)

の創設に向け動き始めています。この基金の準備会が動き出して5ヶ月。学習と話し合いを重ねながら、「マンション型コミュニティ基金」の大きな骨格が出来ました。マンション型の名の通り、それぞれの部屋は独立し、〇〇法人の子育て支援事業に寄付をしてほしいと表札を挙げる「事業指定型寄付」、地域の市民活動を支援するための表札を挙げる「地域指定型寄付」、自分の名前を挙げた「冠基金」など、入居される皆さんの特色が出せる基金です。寄付をしたいと考える人にとっては、マンションに一步足を踏み入れた時、多くの選択肢の中から自分のお金の行き先を決定できるメリットがあります。現在は、3月の決起集会にむけて基金の応援人を募集しています。ぜひ、「市民のお金の大きな循環」づくりを応援してください。

まずは、同封のチラシにご記入をいただきFAXをお願いいたします。

NPO等カフェ運営事業、人材育成事業

「但馬 de 元気カフェ」・「非営利組織の地域づくりカアップ講座」

「但馬 de 元気カフェ」は本年度、既に3地域(新温泉町七釜、香美町小代区、新温泉町浜坂)で開催しており、地域の方々が地元の問題を真剣に考える場となっています。新温泉町浜坂で開催した3回目のカフェでは、島根県隠岐の島海士町(あまちょう)(1ターン者が人口の1割を超えた町)で活躍されている「巡り環」の阿部氏をゲストに迎え、町長を含めた42名の参加者の方々が海士町での行政の取り組みや「巡り環」での阿部氏の活動の事例に熱心に耳を傾けました。

参加者からは海士町は島だから町の一体感が陸続きの新温泉町とはまるで違う、との意見が挙がりました。しかし、この「一体感」こそ町ぐるみで作り上げ

ていく必要があるものではないでしょうか。陸続きの町を1つの島とみなして、行政と住民が一体となり皆で共感できる行動をどのように始めるのか?少しでも今回のカフェがお力添えになればと思っています。

一方「非営利組織の地域づくりカアップ講座」は、2日間にわたってガッツリマネジメント力をつけて頂く講座。10月に豊岡で開催し、24年1月には朝来市で開催する予定です。既に講座を受講された方々が自分たちの地域に戻って、小さな活動が生まれ始めています。養父市大屋町では、自分たちの町の活動を自立させて、NPO法人化する事を検討し始めています。法人格は道具にすぎない、適切な道具を適切な方法で最大限活用する方法を考える事、これがこの講座のポイントとなっております。



ひょうごアドプト事業報告

「阪神北ひょうごアドプト☆チャリティ・フェスタ」開催しました。

11月5日(土)小雨の中「第3回阪神北ひょうごアドプト☆チャリティ・フェスタ」を開催しました。このフェスタは、アドプト参加団体の今後の活動資金をつくるために、阪神北県民局管内の団体がネットワークを組み実行委員会形式で実施したものです。本年度も食品容器環境美化協会のご協力をいただきました。子どもたちもディスクゴルフや輪投げに夢中で、はばタンも会場をにぎわしてくれました。



地元自治会の方たちに、カレーライス・おにぎり・豚汁の炊き出しなどで応援していただきました。午後になると雨が本格的に降り出しましたが、ステージは最後まで盛り上がっていました。“わたしたちのまちをきれいにする活動”「アドプト」に今後も皆さまのご協力とご理解をお願いいたします。

東日本大震災支援事業「お茶っこカフェ」

12月4日(日)のお茶っこカフェは宝塚歌劇の観劇。青いドレスでおしゃれをしてきてくれた女の子や人ごみに驚いている男の子など参加者は総勢20名。気仙沼から避難されたYさんは、津波で亡くなられた奥さんと娘さんの遺骨をバックに忍ばせて参加。娘さんは宝塚歌劇の大ファンだったそうです。観劇中は遺骨を抱きしめ、涙が止まらなかったとお話を聞き、胸が熱くなりました。いろんなことがあった一年、被災者のみなさんが一時夢にひたった3時間でした。ご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。



次回は1月14日(土)、「宝塚子ども落語」を和室で楽しんでいただきます“かわいい落語で初笑い!!” みんなで一緒に笑い、心のリフレッシュをしていただきたいと思います。

*****シンポジウムのご案内*****

阪神・淡路大震災 1.17 追悼・防災啓発行事 「宝塚・語りつく震災」

入場
無料

I. シンポジウム

- ◆日時：平成24年1月12日(木) 13時30分～16時
- ◆場所：宝塚市立西公民館 (阪急小林駅下車徒歩3分)
- ◆コーラス：女性コーラスグループ「コーロラ・ビスタ」
- ◆基調講演：テーマ「震災の体験を未来につなぐ」
講師 堀内正美(俳優・認定NPO法人阪神淡路大震災「1.17 希望の灯り」代表)
- ◆パネルディスカッション：テーマ「語りつく震災 ～安全安心なまちをめざして～」
コーディネーター：堀内正美
パネリスト：福住美寿(宝塚市民生・児童委員) 上田滉輔(関西学院大学学生)
宮里文子(NPO法人関西アロマセラピスト・フォーラム副理事長)



堀内正美さん

II. 追悼行事「1.17 祈りのともしび」

- ◆日時：1月17日(火) 5時30分～6時 キャンドル点灯・記帳 5時30分～ 黙祷 5時46分
- ◆場所：末広中央公園

お知らせとお詫び いつも、宝塚NPOセンター通信をご高覧いただき、ありがとうございます。さて、前号の「私とNPO」では、宮城県の被災者で伊藤貴子さんに震災時の様子などを綴っていただき、その続編として、連載欄を設ける予定にしておりましたが、伊藤さんの多忙と体調不良のため、今回は掲載できなくなりました。また、今後の連載についても不定期とさせていただきます。お詫び申し上げますとともに、事情につきご理解いただきますようお願い申し上げます。

「認定NPO法人制度」何が変わった？

2011年6月、認定NPO法人制度が大きく変わりました。大きな改正点は：

- 1. 寄付が集めやすくなりました。** 支払った寄付金額の最大50%がそのまま寄付者に戻ってくる「税額控除方式」が認められ、従来の「所得控除方式」のどちらかを選択できるようになりました。
- 2. 認定が取りやすくなりました。** これまで最大の関門と言われてきた寄付金の基準（PST）が大幅緩和されました。従来は、経常収入金額に占める寄付金収入の割合が20%以上であることが必要であったが、3,000円以上の寄付者が100人以上であればよいということになりました。従来方式のどちらかを選択できます。
- 3. 「仮認定制度」が導入されます。** 来年4月からは、上記のPST基準をクリアしていなくても、他の要件を満たしていれば、仮認定が受けられます。有効期間は仮認定の日から3年間、1回に限り有効です。
- 4. 来年4月から認定機関が、国税庁から都道府県または政令指定都市に移管されます。**

今回の改正NPO法・税制により、NPOも比べられ選ばれる時代になり、社会的な責任がますます問われることとなります。詳しい内容をお知りになりたい方は是非宝塚NPOセンターまでご連絡を！

ひょうご県民ボランティア活動受賞

(特活) ひょうご宝塚園芸福祉協会

理事長 金岡重子さん

長年にわたるボランティア活動、地域での活動、また、NPOの理事長としての地道な活動が認められての受賞です。おめでとうございます。



兵庫県くすのき賞受賞

宝塚NPOセンターは、23年度

兵庫県くすのき賞を受賞しました！

この受賞は、センターを支えてくださる皆さまのおかげと、深く感謝しております。今後も、地域に密着したNPOとして会員や支援者の皆さまとともに、事業を進めていく所存です。引き続き応援をお願いいたします。



会員募集・継続のお願い

皆様の会費や寄付は活動資金として、ボランティアとして提供される知識や技術は活動の活力となっています。どうぞ一緒に会員としてNPO・NGOを支える活動にご参加くださいますようお願い申し上げます。

[正会員]個人会員 10,000円/団体会員(NPO・市民活動団体) 10,000円/法人会員30,000円/ [準会員] 3,000円

銀行振込：三菱東京UFJ銀行 阪急宝塚出張所 普通預金3629422口座名義 特・宝塚NPOセンター

郵便振替：口座番号 00930-8-77117 口座名義 宝塚NPOセンター 郵便振替用紙をご利用下さい

ご支援ありがとうございます (順不同、敬称略 期間：2011.9.24~12.15)

新たに入会された皆さん 【個人準会員】美濃岡成、山本恵介

寄付をいただいた皆さん 学芸創造研究会、(特)そら、(特)日高共同作業所、鶴丸悌二



会員の皆様へ！

いつも私たち宝塚NPOセンターの活動にご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。本年度はこれまでの感謝の気持ちを込めて、クリスマスカードを送らせていただきましたが、いかがでしたか？

これは、当センターのボランティアさんたちが、毎週木曜日に集まってつくってくれたものです。ボランティアさんの一人が押し花の先生だったので実現したのですが、素人にはとても難しいものでした。毎年のごながら、会員の皆様、寄付者の皆様やボランティアさんに感謝感謝の一年でした。

来年も引き続き宝塚NPOセンターを支えて頂きますようお願い申し上げます。

今年も残すところあとわずかとなりました。いろいろなことがあった一年でしたが、宝塚NPOセンターでは、2月に森綾子の死という辛いできごとがありました。

3.11には千年に一度という巨大地震と原発事故という未曾有の大災害で多くの方が亡くなりました。そして、阪神大震災からもうすぐ17年、私たちはこれらのできごとを決して風化させてはいけません。1.17が近づくとつれて、思うことです。(T.K)

特定非営利活動法人 宝塚NPOセンター

〒665-0845

宝塚市栄町 2-1-1 ソリオ 1-3F

Tel 0797-85-7766

Fax 専用 0797-85-7799

利用時間 9:00~18:00

休館日 日・祝日・年末年始

Email zukanpo@hnpo.net

URL http://hnpo.net

生きがいごとサポートセンター阪神北

Tel 0797-87-4350

Fax 専用 0797-87-7799

Email cdc@hnpo.net

URL http://cdc.hnpo.net